

平成 30 年 12 月 13 日

狛江市議会議長

小 川 克 美 様

社会常任委員会

委員長 鈴 木 えつお

### 社会常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について調査した結果を、次のように報告いたします。

#### 記

##### 1 調査事件名

子育て環境の充実について

##### 2 調査の目的

共働き世帯の増加や核家族化の進展、地域のつながりの希薄化などに伴い、子育ての孤立化が進み、子育てに不安や孤立感を感じる家庭も少なくない。また、就労形態の多様化や女性の社会進出に伴い、保育ニーズは年々増大しており、保育園の待機児解消が社会問題になっている。

そのため本委員会では、子供たちが健やかに育ち、安心して子育てのできるまち・狛江の実現のために、市として取り組むべき課題について調査することとした。

##### 3 調査結果と提言

上記の目的を達成するため、本委員会では保育園に関する基礎資料等、子育て環境の充実に関する資料調査を行った。また、市内の保育園や家庭的保育室、児童館、子ども家庭支援センター等の現地視察を行い、施設長等から運営状況や課題等について説明を受けるとともに、自主保育を行っている保護者から運営状況や事業継続の課題等について説明を受けた。

その結果、改めて狛江市の子育て環境の実態について把握することができ、今後の「子育て環境の充実」に向けた課題についても認識を新たにすることができた。

以上の調査結果を踏まえ、本委員会として狛江市の「子育て環境の充実」に向け、次のように提言する。

## ◎ 共働き家庭への支援についての提言

### (1) 保育園の充実

- ① 子供が保育園に入れなかった家庭では、保護者が仕事を辞めざるを得なくなるなど深刻な状況となっている。狛江市においても平成31年度に待機児ゼロを実現するという目標を堅持し、認可保育園の増設を進める。

また、認可保育園増設にかかわる市の財政負担を軽減するため、国や都に対し財政支援の強化を強く要請する。

- ② 公立保育園の嘱託保育士については応募が少なく、派遣委託で雇用している現状が明らかとなった。安心・安全な保育を保障するために、保育園職員の正規化や嘱託職員の処遇改善を進める。

- ③ 法に基づく職員体制であっても十分ではなく、配慮の必要な子供への対応や保育書類等の作成などにより、職員の残業が日常的になっているとの声が寄せられた。狛江市としても国に対し、職員の配置基準の拡充や公定価格の引き上げを求める。

- ④ 十分な園庭面積が確保されていない保育園が多いことが明らかとなり、保護者から園庭拡大の要望が出ている保育園もあったため、市として園庭拡大への支援を進める。

また、公立保育園でも園庭面積が基準に達していない園がある。基準に達していない駒井保育園の園庭拡大を急ぎ、駄倉保育園については将来的な園庭拡大を検討する。

- ⑤ 園庭の狭い保育園が増設される中、保育園児の遊び場として公園や広場が大きな役割を發揮している。駅周辺等への公園や広場の増設を進めるとともに、保育園児の公園・広場の利用について近隣からの理解が得られるよう、市として支援する。

あわせて、保育園児が利用する公園や広場へのトイレの設置を進め、特に利用の多い狛江駅前「メビウス∞えきまえ広場」はトイレの設置を急ぐ。

- ⑥ 保育の質を確保するための東京都の指導監査では、保育指針に基づいたきめ細かな指導が行われているが、保育園が増設される中、十分に回り切れていない実態がある。安心・安全な保育を進めるために、認可保育園等への巡回指導監査の回数をふやし、年1回など、定期的に指導監査が行えるよう都に要請する。

- ⑦ 家庭的保育室では人員体制の面から、保育士が休暇を取れない・研修に参加できないという現状がある。保育士が休暇や研修の機会を確保できるよう、家庭的保育室の人員体制強化のための財政支援や、近隣の認可保育園からの支援等を行う。
- ⑧ 民間の保育園が増えているため、公立・私立保育園の連携交流の取り組みを強化し、狛江市全体の保育水準の向上につながるようにする。

## (2) 学童クラブの充実

保育園の入所希望者の増加とともに、学童クラブへの入所希望がふえ、平成 30 年 4 月 1 日現在の学童クラブの待機児童数は 86 名に達している。学童クラブの増設に取り組み、一日も早く待機児を解消する。

## ◎ 在宅子育て家庭への支援についての提言

### (1) 子ども家庭支援センターの充実

市内中心部の複合施設への移転により利用者の増加が予想される。また、少人数職場となることで職員の融通が利かなくなると予想される。さらには、児童虐待防止への対応強化も求められているため、狛江市の子育て支援拠点としての役割が果たせるよう、人員体制を強化する。

### (2) 児童館・児童センターの充実

- ① 自由来館の中、発達に課題のある子供の来館もふえており、安全確保のために職員がついていなければならない実態がある。実態を踏まえた人員の加配を進める。
- ② 岩戸児童センターの体育館は、夏場は 40 度にもなるが、これまでは家庭用の扇風機が何台か設置されているのみであった。このたびの施設改修で床置き式の冷暖房機 2 台が設置されたが、今後の運用状況を見ながら、引き続き熱中症対策を進める。

### (3) 一時保育の定員拡大

一時保育は 5 施設で年間延べ約 2,700 名が利用しており大変需要が多く、定員がいっぱいで予約がなかなか取れないという状況が続いている。そのため、一時保育を実施する保育園及び定員の拡大を早急に進める。

#### (4) 自主保育事業への支援

多摩川河川敷で行われている自主保育では、自然の中で子供たちの自主性を大切にする保育が、保護者による輪番で実施されており、子供たちの育ちを保障する貴重な取り組みとなっている。

実施団体からは、自然の中での遊びを大切にする保育を行うための荷物の保管場所の要望が出されているため、荷物置き場の確保を検討する。また、事業継続のための財政支援を充実する。

#### ◎ 子供たちへの学習支援についての提言

遊びを中心とした乳・幼児期の子育て環境の充実とともに、その後の成長に合わせた学習支援の充実が求められる。学校教育の充実はもとより、地域の中で子供たちが気軽に参加できる学習支援の場づくりへ、(仮) 狛江市子育て・教育支援複合施設等の公共施設や空き家の利活用、人材確保への支援、事業継続のための財政支援等に力を入れる。

### 4 調査の経過

#### ○ 委員会開催日 (合計 13 回開催)

平成 29 年 6 月 14 日 所管事務調査事項を決定

平成 29 年 7 月 27 日 調査の大項目を決定、具体的調査項目を「子育て環境の充実」と決定、資料要求

平成 29 年 9 月 15 日 資料に基づき市側より説明、質疑応答、意見交換、資料要求

[協議内容] 園庭面積、保育士数、正規・嘱託職員の配置、巡回指導、保育指針、保育中の事故、株式会社への委託、保育園・保護者の連絡会、待機対策など

平成 29 年 11 月 2 日 資料に基づき市側より説明、質疑応答、意見交換、資料要求、委員派遣の決定

[協議内容] 入所保留となった保護者の生活状況、待機児対策、市財政負担軽減への国・都への要望、認証保育園の保護者負担軽減、幼稚園の取り組み、保育士の確保、人口増と保育の需要、将来的見通し、学童保育所の待機児、保育園通所児の保護者の不満、公立以外の保育園の

保護者の要望，問題のあった保育園への指導，子ども安全対策など

平成 29 年 12 月 13 日 資料に基づき市側より説明，質疑応答，意見交換，資料要求，委員派遣の決定

〔協議内容〕大規模マンション建設時の保育園の設置要請，巡回指導の実態と是正指導・指導内容，保育士の研修，保育士の確保，一時保育の充実，園庭・近隣公園の確保など

平成 30 年 2 月 1 日 資料に基づき市側より説明，質疑応答，現地調査の感想及び意見交換，委員派遣の決定

〔協議内容〕一時保育利用状況，都の指導監査の回数・内容等，保育職員向け研修の実態，国や都の補助金の効果など

平成 30 年 3 月 8 日 今後の進め方について協議，委員派遣の決定

平成 30 年 4 月 26 日 現地調査の感想及び意見交換

平成 30 年 6 月 20 日 調査報告書作成に向けての協議

平成 30 年 7 月 30 日 調査報告書作成に向けての協議

平成 30 年 9 月 13 日 調査報告書作成に向けての協議

平成 30 年 11 月 2 日 調査報告書作成に向けての協議

平成 30 年 12 月 13 日 調査報告書決定

#### ○ 委員派遣

平成 30 年 1 月 30 日 狛江市立駄倉保育園，ベネッセ狛江南保育園，さつき家庭保育室に委員 7 人を派遣し調査

平成 30 年 4 月 16 日 狛江市立岩戸児童センター，狛江市子ども家庭支援センターたんぽぽ，あおぞら自主保育 狛江おひさまの会に委員 7 人を派遣し調査